

平成24年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月14日

上場取引所 大

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

コード番号 7707 URL <http://www.pss.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田島 秀二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役業務本部長

(氏名) 秋本 淳

TEL 047-303-4800

四半期報告書提出予定日 平成24年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年6月期第3四半期の連結業績(平成23年7月1日～平成24年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第3四半期	2,506	6.3	△143	—	△144	—	△159	—
23年6月期第3四半期	2,356	△49.8	△249	—	△231	—	△227	—

(注) 包括利益 24年6月期第3四半期 △176百万円 (—%) 23年6月期第3四半期 △213百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年6月期第3四半期	△1,746.90	—
23年6月期第3四半期	△2,492.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年6月期第3四半期	4,513	2,683	55.9
23年6月期	4,602	2,861	58.8

(参考) 自己資本 24年6月期第3四半期 2,524百万円 23年6月期 2,704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年6月期	—	0.00	—	—	—
24年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年6月期の連結業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,620	15.2	10	—	△30	—	△60	—	△657.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年6月期3Q	91,260 株	23年6月期	91,260 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

24年6月期3Q	— 株	23年6月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年6月期3Q	91,260 株	23年6月期3Q	91,260 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞からは回復の兆しが見られるものの、資源価格の高騰や円高傾向が継続していることから、先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、バイオ関連業界において、遺伝子やタンパク質の解析や診断に利用される自動化装置の製造販売、それら装置に使用される試薬や反応容器などの消耗品類の製造販売に注力してまいりました。

当社グループの主力製品は、血液や組織細胞から遺伝子やタンパク質を抽出・精製するための自動化装置（DNA自動抽出装置）であり、当社の特許技術を利用したオリジナル製品群であります。これら製品は、大手企業へのOEM販売（相手先ブランドによる販売）を中心にワールドワイドに展開しております。主要なOEM先は、ロシユグループ、キアゲングループ、三菱化学メディエンス(株)、ライフテクノロジーズ社、ベックマン・コールター社、ナノストリング社などとなっております。

また、近年はOEMばかりではなく、自社ブランドによる販売展開にも注力しております。

前第3四半期連結累計期間は、一昨年 of 新型インフルエンザの流行が収束する過程で、OEM先において当社製品（装置及び消耗品）が過剰在庫となった影響から、大幅に売上高を落とす結果となりましたが、当第3四半期連結累計期間は、一部にその影響は残るものの、キアゲングループ向け販売の回復や自社販売の増加などから、売上高2,506百万円（前年同期比6.3%増）、売上総利益912百万円（前年同期比11.4%増）と増収増益を確保いたしました。

一方で、販売費及び一般管理費は、前年同期比で若干減少の1,056百万円（前年同期比1.2%減）となり、その結果、営業損失143百万円（前年同期は営業損失249百万円）となりました。その他、第2四半期連結累計期間と比べて為替差損は縮小したものの、支払利息や法人税等の計上などから、経常損失144百万円（前年同期は経常損失231百万円）、四半期純損失159百万円（前年同期は四半期純損失227百万円）となりました。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシユグループ	691	29.3	615	24.6	△11.0	944	30.1
キアゲングループ	570	24.2	692	27.6	21.5	700	22.3
その他OEM先	812	34.5	834	33.3	2.7	1,136	36.1
自社販売先	281	12.0	363	14.5	28.9	360	11.5
合計	2,356	100.0	2,506	100.0	6.3	3,142	100.0

ロシユグループ向け販売は、前述の過剰在庫の影響が未だに残る形となり、売上高615百万円（前年同期比11.0%減）となりました。ただし、装置及び消耗品の出荷状況は回復基調にありますので、今後に期待できるものと考えております。

キアゲングループ向け販売は、引続き好調な販売を維持し、売上高692百万円（前年同期比21.5%増）となりました。

その他OEM先に関しましては、一部の米国OEM先が低調に推移していますが、新規OEM先として装置の開発契約を結んだアイルランドのバイオトリン社（イタリアのディアソリン社の子会社）や米国アイビス社（米国アボット社の子会社）に対し、開発進捗に伴う売上が計上されております。また、三菱化学メディエンス(株)に対する販売も好調に推移したことなどから、売上高834百万円（前年同期比2.7%増）となりました。

自社販売に関しましては、前連結会計年度より注力しているエピジェネティクス分野に対する装置及び試薬の販売が拡大してきたことや米国ナノストリング社が供給している遺伝子解析装置に関する日本国内への販売代理活動などが功を奏し、売上高363百万円（前年同期比28.9%増）となりました。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	1,524	64.7	1,377	54.9	△9.7	1,990	63.3
試薬・消耗品類	550	23.4	713	28.5	29.6	790	25.2
メンテナンス関連	235	10.0	243	9.7	3.1	311	9.9
その他	45	1.9	172	6.9	276.6	49	1.6
合計	2,356	100.0	2,506	100.0	6.3	3,142	100.0

(注) 当連結会計年度より、製品区分の表示を変更しております。当第3四半期連結累計期間を前連結会計年度における製品区分別に表示すると、DNA自動抽出装置等1,377百万円、プラスチック消耗品634百万円、その他理化学機器172百万円、その他製品322百万円となります。

① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の特許技術を利用した自動化装置の区分であり、ロシユグループやキアゲングループ等に供給しているDNA自動抽出装置の他、三菱化学メディエンス(株)に供給している免疫化学発光測定装置や自社ブランド展開しているタンパク質自動精製装置などがあります。

当第3四半期連結累計期間は、キアゲングループや三菱化学メディエンス(株)向け販売は好調に推移しましたが、ロシユグループや一部の米国OEM先向けの販売が低調であったことから、売上高1,377百万円（前年同期比9.7%減）となりました。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。販売単価は、為替の影響や機種により価格帯が異なることなどから、変動しているものであります。

	前連結会計年度				当連結会計年度		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
販売台数(台)	316	169	281	244	243	331	207
販売金額(千円)	623,144	355,111	546,226	466,266	456,905	544,719	375,598
販売単価(千円)	1,971	2,101	1,943	1,910	1,880	1,645	1,814

② 試薬・消耗品類

当区分は、DNA抽出やタンパク精製などに利用される各種の試薬及び当社装置の使用に伴い消費される反応容器などの専用プラスチック消耗品の区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社で試薬を製造販売しておりますが、プラスチック消耗品類は当社から購入する契約となっております。

当第3四半期連結累計期間は、過剰在庫の調整もほぼ終了し、売上高713百万円（前年同期比29.6%増）となりました。当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

③ メンテナンス関連

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ（交換部品）販売などの区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社でメンテナンス対応しておりますが、スペアパーツは当社から購入する契約となっております。

当第3四半期連結累計期間は、売上高243百万円（前年同期比3.1%増）となりました。当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

④ その他

当区分は、上記①②③のいずれにも該当しない売上を区分しています。主には、研究施設などで利用される特注自動化機器や顧客要求に基づく新規の製品開発、他社製品の販売代理活動などの売上が区分されています。

当第3四半期連結累計期間は、新規OEM先として装置の開発契約を結んだアイルランドのバイオトリン社（イタリアのディアソリン社の子会社）や米国アイビス社（米国アボット社の子会社）に対し、開発進捗に伴う売上が計上されたこと、また、米国ナノストリング社が供給している遺伝子解析装置に関する日本国内への販売代理活動などが功を奏し、売上高172百万円（前年同期比276.6%増）となりました。当区分の売上高は、開発案件の受注状況などにより大きく変動いたします。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

当第3四半期連結累計期間の日本の売上高は2,068百万円（前年同期比3.9%増）となり、その内、外部顧客への売上高は723百万円（前年同期比53.7%増）となりました。三菱化学メディエンス(株)向け販売や自社販売などの国内販売が好調に推移いたしました。一方、営業費用は2,102百万円（前年同期比2.6%減）となり、営業損失34百万円（前年同期は営業損失168百万円）となりました。

② 米国

当第3四半期連結累計期間の米国の売上高は409百万円（前年同期比30.6%減）となりました。一部の米国OEM先への販売が低調に推移したことから減収となりました。一方、営業費用は409百万円（前年同期比27.8%減）となり、営業損失0百万円（前年同期は営業利益22百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間は、減収減益となったものの、米国では現在、新規OEM先となるアイビス社（アボット社の子会社）を獲得するなど、今後に期待できる案件が進捗しております。

③ ドイツ

当第3四半期連結累計期間のドイツの売上高は1,377百万円（前年同期比5.8%増）となりました。キアゲングループ向け販売が好調に推移いたしました。一方、営業費用は1,356百万円（前年同期比5.0%増）となり、営業利益21百万円（前年同期比117.9%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は4,513百万円となり、前連結会計年度末に比べて88百万円の減少となりました。受取手形及び売掛金が113百万円増加、たな卸資産が46百万円増加した一方、現金及び預金が111百万円減少、未収消費税等の減少などでその他流動資産が63百万円減少、減価償却などで有形固定資産が75百万円減少いたしました。

負債合計は1,830百万円となり、前連結会計年度末に比べて89百万円の増加となりました。流動負債において、1年内返済予定の長期借入金が150百万円増加した一方、1年内償還予定の社債が200百万円減少、買掛金が67百万円減少、未払金の減少などでその他流動負債が41百万円減少いたしました。また、固定負債において長期借入金が228百万円増加いたしました。

純資産合計は2,683百万円となり、前連結会計年度末に比べて178百万円の減少となりました。四半期純損失の発生により利益剰余金が159百万円減少した他、為替換算調整勘定が20百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間は、売上高2,506百万円、四半期純損失159百万円という厳しい結果となりました。残る第4四半期においては、ロシュグループ向け販売の更なる回復が期待できること、米国アイビス社などの現在進行中の開発案件の進捗による売上確保、その他営業活動の強化と経費削減などにより、売上と利益の確保に努め、予想の範囲内への着地を目指します。

こういった状況を勘案し、現時点においては業績予想の変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,990,458	1,879,249
受取手形及び売掛金	551,405	664,476
商品及び製品	689,475	727,369
仕掛品	44,385	45,993
原材料及び貯蔵品	30,417	37,439
繰延税金資産	21,792	22,301
その他	148,047	84,237
貸倒引当金	△1,819	△3,117
流動資産合計	3,474,163	3,457,948
固定資産		
有形固定資産	821,078	745,992
無形固定資産	23,836	22,426
投資その他の資産	283,477	287,204
固定資産合計	1,128,392	1,055,624
資産合計	4,602,555	4,513,573
負債の部		
流動負債		
買掛金	232,078	164,811
1年内償還予定の社債	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	233,387	384,272
リース債務	11,213	11,031
未払法人税等	14,734	13,044
賞与引当金	5,916	34,777
その他	183,175	141,772
流動負債合計	880,505	749,709
固定負債		
長期借入金	807,235	1,035,715
リース債務	13,601	5,384
繰延税金負債	38,399	38,704
その他	991	550
固定負債合計	860,227	1,080,354
負債合計	1,740,733	1,830,063

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,217,194	2,217,194
資本剰余金	251,999	251,999
利益剰余金	340,298	180,876
株主資本合計	2,809,492	2,650,069
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△104,509	△125,372
その他の包括利益累計額合計	△104,509	△125,372
新株予約権	3,049	1,504
少数株主持分	153,790	157,307
純資産合計	2,861,822	2,683,509
負債純資産合計	4,602,555	4,513,573

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
売上高	2,356,871	2,506,254
売上原価	1,537,750	1,593,681
売上総利益	819,120	912,573
販売費及び一般管理費	1,068,693	1,056,221
営業損失(△)	△249,572	△143,648
営業外収益		
受取利息	899	448
持分法による投資利益	14,529	1,266
助成金収入	23,620	11,292
保険返戻金	—	1,544
その他	5,962	2,465
営業外収益合計	45,012	17,019
営業外費用		
支払利息	13,979	11,980
為替差損	12,332	6,054
その他	532	132
営業外費用合計	26,843	18,167
経常損失(△)	△231,403	△144,796
特別利益		
固定資産売却益	3,867	559
貸倒引当金戻入額	2,131	—
新株予約権戻入益	—	1,544
その他	11	—
特別利益合計	6,011	2,104
特別損失		
固定資産除却損	561	2
特別損失合計	561	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△225,954	△142,694
法人税、住民税及び事業税	33,417	13,080
法人税等調整額	△17,064	130
法人税等合計	16,353	13,211
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△242,307	△155,905
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△14,837	3,516
四半期純損失(△)	△227,470	△159,422

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△242,307	△155,905
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	29,031	△20,862
その他の包括利益合計	29,031	△20,862
四半期包括利益	△213,276	△176,768
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△198,438	△180,285
少数株主に係る四半期包括利益	△14,837	3,516

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成23年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	470,367	588,091	1,298,413	2,356,871	—	2,356,871
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,519,522	1,776	3,105	1,524,403	△1,524,403	—
計	1,989,889	589,867	1,301,518	3,881,275	△1,524,403	2,356,871
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△168,156	22,465	9,776	△135,914	△113,658	△249,572

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△113,658千円には、セグメント間取引消去9,288千円及び配賦不能営業費用△122,947千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	723,119	407,935	1,375,199	2,506,254	—	2,506,254
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,344,904	1,412	2,361	1,348,677	△1,348,677	—
計	2,068,023	409,347	1,377,561	3,854,932	△1,348,677	2,506,254
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△34,865	△365	21,298	△13,932	△129,715	△143,648

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△129,715千円には、セグメント間取引消去△9,267千円及び配賦不能営業費用△120,448千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。